



東松島市立赤井小学校 でめこん・教育相談便り 3月号

# あかいつ子通信

## 【子供は風の子、元気な子】

### 親が大事にしたい「らりるれろ」

- ㊦ ラブ～愛情
- ㊧ リスペクト～尊敬
- ㊨ ルール～決まり事
- ㊩ レッツ～やってみよう
- ㊪ ロング～長い目で

立春が過ぎ、暦の上ではもう春です。三寒四温とはよく言ったもので、不安定な天気が続きますが、寒くても、雪が降っても、赤井小学校の児童は変わらない元気な姿を見せてくれています。風邪やインフルエンザの流行が気になります。学校では、子供たちの日々の変化に気を配り、心身の不調がないか毎日確認しています。御家庭でも朝の「おはようございます!」のあいさつが昨日と変わらない元気なものか、帰宅した際の「ただいま!」のあいさつが、明るいものであるか、ぜひ確認してください。

**3月のSC来校日**  
13日(木)

心配事は 小さなうちに 相談を

あかいつ子通信や各種学校からのお便りのバックナンバーはここから。



### 親子の小窓



第11回テーマは「**不登校の理解**」です。不登校の増加は社会問題化していて、宮城県でも、その発生率小・中学校共に全国平均を上回っています。

その理由は、「**無気力・不安**」が群を抜いて多く、50.9%とほぼ半数を占めます(文部科学省「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」より)。つまり**半数以上の不登校の子供は、本人もその理由をよく分かっていない**のです。

不登校は、いつでも、どんな子にも起こり得ます。しかし、家庭と学校が協力して、子供の自立のための関わりを継続して行っていけば、**未然防止**につながったり、不登校になったとしても、**成長のための有意義な時間**にしたりすることができます。以下は宮城県教育委員会から出された「中学生の子供をもつ保護者のみなさんへ」における「お子さんとのふれあいについて」を抜粋したものです(右が該当資料のQRコード)。親子の関わりでの参考にしていただければと思います。



- ・ 思春期の子供の声に耳を傾け、愛情を込めて声を掛けるなど、**子供とのコミュニケーション**を大切にしましょう。
- ・ **家族一緒の食事を大切に**するとともに、子供に**家庭の役割を分担**させて、その頑張りを認め、**家族の一員としての自覚**をもたせましょう。
- ・ 子供が日常生活の中で、**自分で考え、判断し、行動する場面**を作り、自立心を養いましょう。
- ・ 子供が**真剣に取り組めるものを見付けさせ**、努力していることを**認め、励まし、自信**をもたせましょう。

ちなみに、「無気力・不安」に続く不登校の原因は、「**生活リズムの乱れ、あそび、非行**」12.6%、「**親子の関わり方**」12.1%、「**いじめを除く友人関係をめぐる問題**」6.6%となっています。よくイメージされる「**いじめ**」は0.3%となっています。



## 【1月の でめこんアンケート結果 より】

赤井小学校児童へのアンケート結果です。(数字は%を表します。)

A：よくできた B：まあまあできた C：あまりできなかった D：できなかった  
A+Bの合計（前向きなアンケート結果）が先月より 増：青 減：赤

	下学年(1~3年生)				上学年(4~6年生)			
	A	B	C	D	A	B	C	D
①1日1時間の使用	46	31	12	11	42	42	10	6
②就寝1時間前までの使用	60	27	10	3	52	34	12	1
③定時の就寝	58	30	7	5	62	30	4	4
④定時の起床	53	31	10	6	58	28	12	2
⑤朝食	84	12	4	0	84	12	4	0
⑥30分以上の運動	69	20	10	1	54	18	18	10
⑦でめこんを意識した生活	53	26	16	5	46	38	14	2

冬休み明けの生活を振り返りましたが、生活のリズムを整え、充実した生活を送っていることが分かる結果でした。今年度のでめこんアンケートはこれで最後になります。SSWの石川先生に、これまでのあかっ子の調査結果についてお聞きしました。



### 教えて!石川先生 のコーナー

【I：回答者（SSW:石川先生） C：質問者（教務主任:千葉）】

C 一年間を通し、あかっ子のでめこんへの取組を見守っていただき、ありがとうございました。児童や保護者のみなさんへアドバイスやメッセージがあればお願いします。

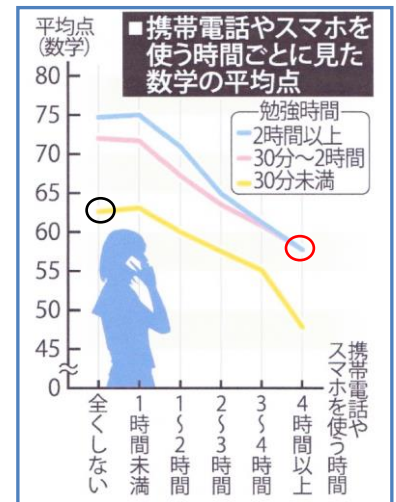
I 東北大学加齢医学研究所と仙台市教育委員会が平成22年から「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」で生活習慣と脳の発達の関係について調査を実施しているなかで、10年間の追跡調査の結果、スマホやタブレットをたくさん使う子供たちの学力が低い、脳の発達が遅れていることが分かりました。

また、近年、「授業中ウロウロする」「授業を妨害する」「教師や親に暴言を吐く」といった行動があらわれる、発達障害とみられる子供が日本のみならず世界的に増加傾向にあります。日本では、2006年から2019年の間で、ASD（自閉症スペクトラム障害）は6.5倍、ADHD（注意欠陥・多動性障害）は1.4倍、LD（学習障害）は11.5倍に増えたといわれています。脳機能の障害であり、遺伝的要因が大きな主な原因である発達障害がこれだけ急に増加することは考えられず、これは「スマホやデジタルスクリーンのせい」だといわれています。

ゲームやYouTube等のデジタル機器の長時間使用は、睡眠や朝食、運動の基本的な生活習慣の定着にも大きく影響し、脳や心身の発達・成長だけでなく学力や体力、視力等の低下につながります。

子供の習慣は、家族の習慣であり、親の習慣が鏡になります。新しい学年、中学生になるこの機会に、デジタル機器との付き合い方について親子一緒に考え、実践してみたいはいかがでしょうか？

C 現在の生活が子供たちの変容にどうつながるかは、分かりにくいものです。将来に視点を置いた話をいつも分かりやすく教えてくださいました。次年度も家庭と学校が協同の歩調で指導に当たっていきます。あかっ子の健全な成長のため、これからもご支援をよろしくお願いします!!



出典：東北大学加齢医学研究所・仙台市教育委員会調査

